

編集 後記

いよいよ秋も深まり、朝晩には肌寒さを感じる季節となりました。COVID-19パンデミックの影響により、仕事や学校教育の場面でリモートワークやオンライン授業が導入され、「新しい生活様式」を合言葉に感染予防が求められています。本学会の総会もパンデミックの影響をうけて、今年度の第79回日本公衆衛生学会総会2020はオンライン開催となりました。

さて、第67巻10号をお届けします。本号では、原著5編が掲載されています。これらの論文は、広大な領域を包含する公衆衛生学の学術誌にふさわしく、多彩な研究トピックを扱っています。井村らは、高校生の幸福感に関する尺度開発を行っており、この尺度を用いて、高校生の主観的幸福感を向上させる支援事業を数量的に評価できるようになりました。野澤らは、高血圧に対するナトリウム・カリウム比とBMIの相乗効果を明らかにしており、ナトリウム・カリウム比に着目した保健指導を提唱しています。藤原らは、高齢者を対象に歩行促進事業の健康影響を検討しており、運動機能低下やうつを予防する効果が認められたことから、ポイント制の歩行促進事業の有用性を明らかにしました。湊屋らは、4歳児のアトピー性皮膚炎が、その後の精神健康に関連することを明らかにしています。横山らは、フレイル改善を目的とした事業が要介護・死亡・介護費に与える影響を検討し、いずれも統計的に有意ではありませんでしたが、示唆に富む考察を行っています。いずれの論文も、公衆衛生活動を向上するために活用できる科学的根拠を提供するものです。実践の現場での活用が期待されます。

日本公衆衛生学会が刊行する日本公衆衛生雑誌は、日本の健康問題を解決するための戦略や対策を考え、それを社会に実装するために必要な科学的根拠を集約する重要な場になっていると考えています。会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。(谷村 晋)

次号予告 (第67巻・第11号)

Original article

An Analysis of Disparities in the Changes of Cancer Mortality Rates Among Prefectures in Japan Using Age-Period-Cohort Analysis

.....Tasuku OKUI

Relationship between breakfast consumption and health-related habits among university students in Japan

.....Mie MATO, et al.

原著

高齢者の趣味の種類および数と認知症発症：JAGES 6年縦断研究

.....Ling LING, 他

運転免許“自主”返納の意思決定プロセスにおける質的研究：加齢による自分、身体、社会との関係性の変遷

.....矢野真沙代, 他

在宅の介護関連職における医療職との連携困難感尺度の開発

.....藤田淳子, 他